

2016年度(平成28年度)学校評価自己評価表

大門中学校区

校番 24

福山市立大門中学校

I 福山市のめざす子ども像

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども

II 前年度の学校関係者評価を踏まえた改善点

○生徒自身に夢や目標を明確に持たせ、学習意欲の向上はもとより、地域の一員である事を自覚させる総合的な取り組みを実施していく

III 中学校区

1 めざす子ども像

自ら考え、学び、自尊感情を高める児童・生徒

2 研究主題及び主な研究内容

自ら考え、学び、自尊感情を高める指導のあり方
・道徳教育の推進

3 現状(成果及び課題)

(1) 児童生徒

- ・基礎・基本状況調査の通過率が県平均と同じか上回っている学校数
小学校(国Ⅰ 1/3 国Ⅱ 0/3)(算Ⅰ 3/3 算Ⅱ 2/3)(理Ⅰ 2/3 理Ⅱ 1/3)
中学校(国Ⅰ 1/1 国Ⅱ 1/1)(数Ⅰ 0/1 数Ⅱ 0/1)(理Ⅰ 0/1 理Ⅱ 0/1)
- ・校区の学校 児童・生徒の達成率
 - ① 家庭学習時間 小学校(低30分以上91%中60分以上85%高90分以上71%)中学校(90分以上32%)
 - ② 服装・時間 小学校(服装 86% 時間 82%) 中学校(服装 98% 時間 98%)
 - ③ 自らあいさつ 小学校(90%) 中学校(95%)
 - ④ 問題行動 小学校(累計1件 いじめ4件 不登校0人) 中学校(暴力3件 いじめ1件 不登校3人)
 - ⑤ 自尊感情 「自分の良さは周りの人から認められていると思う」小学校 17%
中学校 25%

(2) 授業

- ・授業の「めあて」が活動目標にとどまり、思考力・判断力等の深まる指導になっていない。
- ・形態としては、ペア・グループ学習を行っているが、互いに学び合い、高め合う協同学習まで至っていない。

IV 自校

1 学校経営方針

(1) 学校教育目標

豊かな知性、人間性を持ち、判断力、実践力のある生徒の育成

(2) 自校の使命(ミッション)

確かな学力と豊かな心を備え、物事を深く考え行動する生徒を育成することで、地域の信頼に応える。

(3) 自校の将来像(ビジョン)

1. 福山100NEN教育を推進し、郷土に誇りをもつ生徒を育成する学校
2. 校訓「人を大切に 時を大切に 物を大切に」を実践できる生徒を育成する学校

2 研究主題及び主な研究内容

自ら考え、学び、自尊感情を高める指導のあり方
・道徳教育の推進

3 現状(成果及び課題)

(1) 児童生徒

- ・基礎学力の定着が弱い。特に数学、理科。
- ・時間管理や服装の自己評価が甘い生徒が多い。

(2) 授業

- ・単元でつける力を系統立てて指導し切れていない。
- ・自分の考えを論理的に表現する力を十分つけきれていない。
- ・自信を持って自分の意見を発表する生徒が少ない。

4 めざす授業の姿

- ・単元の中でつけたい力を意識した、授業展開を行う。
- ・「説明を聞く」「考える」「まとめる」「振り返る」など、学習活動にメリハリをつけ、生徒の活動の時間を設定する。

最終更新日 2017年(平成29年) 3月 10日

V 目標・取組・評価指標等の設定と評価

市重点目標	年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	10月1日 □指標にかかる取組状況 ◎改善方針	尤も評価 達成評価	2月末 □指標にかかる取組状況 ◎中期(中期)経営目標の達成状況 ◎改善方針	尤も評価 達成評価	総合評価																																				
確かな学力	4	基礎学力が定着している生徒の育成	★	継続	・家庭学習時間の増加等で基礎学力の定着を図る。	・定期試験期間等で調査し、グラフ化等にして全校に公表する。	・家庭学習時間90分以上する生徒を70%以上達成の学級数が9/12以上	□評価指標を達成したクラスは、次の通りだった。 <table border="1"> <tr> <td>1学期 中間試験</td> <td>1学期 期末試験</td> </tr> <tr> <td>7/12</td> <td>12/12</td> </tr> </table> ◎2学期から、目標時間を100分以上に設定して、学習に向けての意識づけを図る。また2年生は、学活の時間を利用して、1年生の学習内容を復習するプリント学習に取り組む。	1学期 中間試験	1学期 期末試験	7/12	12/12	3	3	□評価指標を達成したクラスは、次の通りだった。 <table border="1"> <tr> <td>2学期 中間試験</td> <td>2学期 期末試験</td> <td>3学期 学年末 試験</td> </tr> <tr> <td>10/12</td> <td>12/12</td> <td>8/8</td> </tr> </table> ◎基礎学力の定着状況は、定期試験の5教科の学年平均が次の通りだった。(点) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> </tr> <tr> <td>1学期時間</td> <td>768</td> <td>599</td> <td>591</td> </tr> <tr> <td>1学期末</td> <td>680</td> <td>548</td> <td>579</td> </tr> <tr> <td>2学期時間</td> <td>639</td> <td>512</td> <td>589</td> </tr> <tr> <td>2学期末</td> <td>598</td> <td>577</td> <td>599</td> </tr> <tr> <td>学年末試験</td> <td>576</td> <td>577</td> <td>562</td> </tr> </table> ◎定着部基礎テストの結果から、各教科の課題を明らかにし、補充学習を推進。	2学期 中間試験	2学期 期末試験	3学期 学年末 試験	10/12	12/12	8/8		1年	2年	3年	1学期時間	768	599	591	1学期末	680	548	579	2学期時間	639	512	589	2学期末	598	577	599	学年末試験	576	577	562	3	5	3
			1学期 中間試験	1学期 期末試験																																												
7/12	12/12																																															
2学期 中間試験	2学期 期末試験	3学期 学年末 試験																																														
10/12	12/12	8/8																																														
	1年	2年	3年																																													
1学期時間	768	599	591																																													
1学期末	680	548	579																																													
2学期時間	639	512	589																																													
2学期末	598	577	599																																													
学年末試験	576	577	562																																													
			新規	・各教科において自分の考えを論理的に自信を持って表現する生徒を育てる。	・公立高校入試問題や全国学力調査B問題を意識した授業内容を考え、定期試験などで類似問題を解かせる。	・定期試験分析での達成率が60%以上	□1学期定期試験で実施した類似問題の達成率は、国語65% 社会30% 数学58% 理科56% 英語50% だった。 ◎単元でつきたい力を意識し、生徒が深く思考する時間を設定する。	3	3	□類似問題の達成率は、次の通りだった。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>2学期</td> <td>3学期</td> </tr> <tr> <td>国語</td> <td>64%</td> <td>51%</td> </tr> <tr> <td>社会</td> <td>46%</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>52%</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td>45%</td> <td>51%</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>44%</td> <td>55%</td> </tr> </table> ◎「基礎・基本定着状況調査」の生活アンケートの結果は、「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手と分かりやすく伝わるように発表を工夫している。」に対する肯定率は52.2%だった。(2年生) また、「全国学力・学習状況調査」の生徒質問紙の結果は、「友達の前で自分の考えや意見を発表すること得意ですか」に対する肯定率は53.6%だった。(3年生) ◎学業部や生徒部会 委員会種など、すべての学業種加で、生体力発表する場面を設定する。		2学期	3学期	国語	64%	51%	社会	46%	55%	数学	52%	48%	理科	45%	51%	英語	44%	55%	3	3	2																	
	2学期	3学期																																														
国語	64%	51%																																														
社会	46%	55%																																														
数学	52%	48%																																														
理科	45%	51%																																														
英語	44%	55%																																														

豊かな心	3 将来の夢や目標を持って生活する生徒の育成	継続	<ul style="list-style-type: none"> 自分の良さに気づく生徒を育てる。 	学校行事等での活躍の場を設定する。	アンケートで自分にはよい所があると答える生徒が75%以上	<input type="checkbox"/> 自分にはよい所があると答えた生徒は、1学期79%だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 通信や掲示板を使って、生徒の頑張りや写真を写真や作品で紹介する際、評価コメントを入れることで、よさを実感できるようにする。	3 4	<input type="checkbox"/> 評価結果の結果は、次の通りだった。 <table border="1" data-bbox="1579 215 1848 311"> <tr> <th>2学期</th> <th>3学期</th> </tr> <tr> <td>79%</td> <td>83%</td> </tr> </table> <input checked="" type="checkbox"/> 自分にはよい所があると答えた生徒は、1年生88% 2年生72% 3年生80%で、2年生の肯定評価の割合が低い。 <input checked="" type="checkbox"/> 学年通言などで積極的頑張っている生徒の活動を紹介し、自己肯定感を高める。	2学期	3学期	79%	83%	3 4	5																								
2学期	3学期																																					
79%	83%																																					
健やかな体	4 自己の健康管理と体力の向上に取り組む生徒の育成	新規	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に目標管理に取り組む生徒を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 無遅刻達成日数等を公表し、意欲を持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> 無遅刻達成日数が授業日数の60%以上 	<input type="checkbox"/> 無遅刻達成日数が60%以上のクラスは、次の通りだった。 <table border="1" data-bbox="1220 566 1456 710"> <tr> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> </tr> <tr> <td>11/13</td> <td>11/13</td> <td>10/13</td> </tr> <tr> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> </tr> <tr> <td>11/13</td> <td>12/13</td> <td>8/13</td> </tr> </table> <input checked="" type="checkbox"/> 毎月無遅刻達成日数の目標をクラスに提示し、総合優勝の取組として意欲付けを行う。	4月	5月	6月	11/13	11/13	10/13	7月	8月	9月	11/13	12/13	8/13	3 3	<input type="checkbox"/> 無遅刻達成日数が、授業日数の70%以上のクラスは、次の通りだった。 <table border="1" data-bbox="1579 518 1892 646"> <tr> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> </tr> <tr> <td>9/13</td> <td>10/13</td> <td>10/13</td> <td>8/13</td> </tr> <tr> <th>2月</th> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>8/13</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <input checked="" type="checkbox"/> 「基礎・基本定着状況調査」の生活アンケートの結果は、「時間管理ができています」に対する肯定評価は、85%だった。(2年生) また、「全国学力・学習状況調査」の生徒質問紙の結果は、「時間管理ができています」に対する肯定評価は、83.2%だった。(3年生) <input checked="" type="checkbox"/> 各クラスに、無遅刻日数の目標を立てさせ、学級委員や班長を中心に声かけをさせる。	10月	11月	12月	1月	9/13	10/13	10/13	8/13	2月				8/13				4 3	3
4月	5月	6月																																				
11/13	11/13	10/13																																				
7月	8月	9月																																				
11/13	12/13	8/13																																				
10月	11月	12月	1月																																			
9/13	10/13	10/13	8/13																																			
2月																																						
8/13																																						
力量ある教職員	4 意欲的に確かな授業力と専門性を高める教職員	★ 新規	<ul style="list-style-type: none"> 授業力向上に向け、生徒が意欲的に取り組む授業づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が「課題発見・解決する学習」を意識した単元構成の授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導目標が達成できたと思う「マイベスト授業」を学期に2件以上、写真等で報告 	<input type="checkbox"/> 「マイベスト 授業」を写真などで報告できた割合は50%だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 授業研究の指導案に、生徒につけたい力を明記する。また、写真だけでなく、指導目標が達成できた生徒の学習ノートなどをコピーして報告する。	3 2	<input type="checkbox"/> 「マイベスト 授業」を報告できた教職員は、100%だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 「アクションプラン」に基づいた授業の工夫・改善を働いていると回答した教職員の肯定評価の割合は、次の通りだった。 <table border="1" data-bbox="1579 1101 1848 1197"> <tr> <th>1学期</th> <th>2学期</th> </tr> <tr> <td>47.4%</td> <td>57.9%</td> </tr> </table> <input checked="" type="checkbox"/> 年輩組の見直しを通して、生徒に対する力を意識した授業内容の精選を行い、見直しをもった取組をする。	1学期	2学期	47.4%	57.9%	3 4	2																								
1学期	2学期																																					
47.4%	57.9%																																					

市民から信頼される学校	4	保護者・地域から信頼される学校経営	継続・新規	<ul style="list-style-type: none"> ・規律や安全が守られているという保護者や地域とともに活動する学校づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・服装に関して自信を持って適切であると自らいえる生徒を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネクタイ、ネーム着用率を90%以上 ・保護者アンケートでの肯定的評価を90%以上 	<p>□ネクタイ・ネームの着用率と保護者アンケートの結果は、次の通りだった。</p> <table border="1"> <tr> <td>ネクタイ ネーム</td> <td>保護者ア ンケート</td> </tr> <tr> <td>97%</td> <td>96%</td> </tr> </table> <p>◎生徒会交流の活動として、近隣の中学校で一斉に服装点検を行う。また、服装の着こなしについても引き続き声かけをしていく。</p>	ネクタイ ネーム	保護者ア ンケート	97%	96%	3 4	<p>□評価結果の結果は、次の通りだった。</p> <table border="1"> <tr> <td>ネクタイ ネーム</td> <td>保護者 アンケート</td> </tr> <tr> <td>98%</td> <td>91%</td> </tr> </table> <p>◎生徒アンケートの「学校の規則を守っていますか」に対する肯定的評価は、次の通りだった。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1年生</td> <td>2年生</td> <td>3年生</td> </tr> <tr> <td>1学期</td> <td>98%</td> <td>98%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>2学期</td> <td>98%</td> <td>97%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>3学期</td> <td>99%</td> <td>99%</td> <td>97%</td> </tr> </table> <p>また、保護者アンケートの「大野中学校の規律や安全は守られていますか」に対する肯定的評価は、次の通りだった。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1年生</td> <td>2年生</td> <td>3年生</td> </tr> <tr> <td>1学期</td> <td>94%</td> <td>85%</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>2学期</td> <td>90%</td> <td>87%</td> <td>92%</td> </tr> <tr> <td>3学期</td> <td>82%</td> <td>92%</td> <td>95%</td> </tr> </table> <p>◎地域の中学校に対する声を生徒に知らせ、自分たちの評価を見つめさせる。</p>	ネクタイ ネーム	保護者 アンケート	98%	91%		1年生	2年生	3年生	1学期	98%	98%	98%	2学期	98%	97%	98%	3学期	99%	99%	97%		1年生	2年生	3年生	1学期	94%	85%	95%	2学期	90%	87%	92%	3学期	82%	92%	95%	3 4 4
				ネクタイ ネーム	保護者ア ンケート																																													
97%	96%																																																	
ネクタイ ネーム	保護者 アンケート																																																	
98%	91%																																																	
	1年生	2年生	3年生																																															
1学期	98%	98%	98%																																															
2学期	98%	97%	98%																																															
3学期	99%	99%	97%																																															
	1年生	2年生	3年生																																															
1学期	94%	85%	95%																																															
2学期	90%	87%	92%																																															
3学期	82%	92%	95%																																															
<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に参加する生徒を募集し、連携のもと活動させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティアへ参加する生徒数を20%以上 	<p>□地域ボランティアに参加した生徒は、10%だった。</p> <p>◎地域ボランティアの募集をできるだけ早く生徒へ知らせ、参加の呼びかけをしていく。</p>	3 2	<p>□地域ボランティアに参加した生徒は、35%だった。</p> <p>◎ボランティア活動に参加したことがある生徒の割合は、次の通りだった。</p> <table border="1"> <tr> <td>1年生</td> <td>2年生</td> <td>3年生</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>30%</td> <td>31%</td> </tr> </table> <p>◎ボランティア活動に参加した生徒の活動を全校で紹介するなど、活動の成果を共有させる。</p>	1年生	2年生	3年生	50%	30%	31%	3 5 5																																							
1年生	2年生	3年生																																																
50%	30%	31%																																																

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決をあまり図ることができなかった
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決を図ることができなかった

[総合評価]

評価	基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった